
古川さんの恋人

雪風 幸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

古川さんの恋人

【Nコード】

N0623P

【作者名】

雪風 幸

【あらすじ】

多忙を極める毎日に疲れたサラリーマン・古川淳朗と現在モラトリウムを絶賛満喫中の女子大生・鳴瀬美鶴の不器用な恋物語。

独りの男

俺は古川淳朗36歳。バツ一独身子供は前妻が養育中。

現在、第二の人生を謳歌しまくっている。

離婚して久しいが、恋人は別れた直後にやけっぱちで付き合った飲み屋の女ひとりだけ。そいつとも随分まえに別れて、いまは良き友人としてお互い一線引いた付き合いをしている。

職業は旅行関係の仕事をしている。

大手鉄道会社のコールセンター所長だ。

地位と給与はそれなりだが、仕事量は労災レベルでいつ過労でプツツリといってもおかしくない状態である。

金に困らないだけましと言ったところか。

いまのうちにしっかりと貯めて、早期退職するつもりだ。

家は退職したときにでも建てようか。

いまのところの夢は、静かな土地に居を構えて趣味に没頭すること。

サーフィン、釣り、読書、料理、家庭菜園……。やりたいことは困らない。

ギャンブルはしない。女も酒も、タバコも嗜む程度だ。

ようするに、俺は非常につまらない男なのだ。

いつものように最終電車に乗り込み、6駅ほどガタタンゴトントンと揺さぶられ、小汚い駅で吐き出されるように降りる。駅からアパートまで徒歩10分もしない距離に自宅がある。途中、コンビニに寄って缶チューハイとつまみを少し買った。千円札を一枚差し出し

たら、百円に満たない釣銭が返ってきたので募金箱に入れてやった。

ふと、レジの子と目が合った。

20歳そこそこといったところか。

清潔そうな印象の娘だ。

ネームを見ると、まるっこいひらがなで「なるせ」と書いてある。

「いつも、この時間なの？」

なんとなく声をかけてみた。

自分でもなんで声をかけたのか正直いつてわからないが、なんとなくいまいかないと思ったのだ。

「ええ、金曜日は大体」

なにこのおっさんきもい、とかって思ってたんだろうな。
ちいさな整った顔が少し歪んでいる。

「そ、がんばってね。この辺あんま治安良くないから」
「はあ」

なんとなくで始まった言葉のキャッチボールはわずか2往復で終わった。

もしかしたら、こういう無為な会話に飢えていたのかもしれない。

不思議と疲れがやわらいだ気がする。

コンビニを出て、鼻から思い切り夜気を吸い込む。

休日前の高揚感というものを、何年振りかに感じた。

のんびりと歩きだした。
アパートはすぐそこだ。

星が、とてもきれいな夜だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0623p/>

古川さんの恋人

2010年12月29日23時09分発行